



●働き方説明会を開催しました

2024年11月、「働き方説明会」を開催しました。今年は、水戸（8日）、牛久（14日）、取手（18日）と生活クラブの3つのセンターで、それぞれ生活クラブのブロックと共催し、3か所合わせてワーカーズに所属していない方5名をお迎えしました。

当日は、ワーカーズ・コレクティブという働き方についての説明の後、各ワーカーズから自分たちの仕事内容のプレゼンテーションがあり、一緒に働く仲間を募集していますとの呼びかけがありました。



さらに、つくば・市民ネットワーク、とりで生活者ネットワークからネットワーク運動についての紹介があり、生活クラブからは、ワーカーズやネットワーク運動と生活クラブとの関係・連携について、また、ケアステーション牛久の紹介がありました。

スタッフの中には、最近働き始めた新人のワーカーもいて、ワーカーズやネットワーク運動の立ち上げやこれまでの歴史がわかり理解が深まる良い機会だったとの感想もありました。



その後、参加者の方からお話を伺い、内容に応じて個別にご説明させていただきました。

茨城ワーカーズ・コレクティブ協議会では、ワーカーズで働くことや起業についてのご相談をお受けしています。関心のある方は、いつでもお気軽にご連絡ください。

●そらいろ基金をW.Coはちどりへ助成しました



助成金を受け取る「はちどり」の吉江さん(左)

新たにワーカーズ・コレクティブを設立する際の支援のための基金「そらいろ基金」に、「たすけあいワーカーズ・コレクティブはちどり」から助成申請がありました。「はちどり」は、地域のお困りごとを解決するため2024年に設立されたワーカーズで、ひたちなか市と東海村を事業エリアとし、地域に根差した生活支援事業を行っています。

7月3日に書類審査、10月30日に最終審査を行った結果、以下の通り助成が決定しましたのでご報告します。



団体名：たすけあいワーカーズ・コレクティブ はちどり
事業名：リーフレット、角印、名刺等の作成、事務用品の購入
助成金額：50,064円



そらいろ基金より助成金50,064円を頂きました

たすけあいワーカーズ・コレクティブはちどり

2024年10月30日ワーコレ協議会のそらいろ基金審査会に於いて、たすけあいワーカーズ・コレクティブはちどり（以下はちどり）が助成金50,064円を頂きました。ありがとうございました。

はちどりは、2024年1月に設立し、ひたちなか市と東海村で主に家事支援を行っています。設立当初は、事業を始めたばかりで、利用料金からの収入も少なかったために、経営が不安定でした。今回の助成金はとても助かりました。リーフレット作成や、名刺、ゴム印、広報チラシ、ワーカーの備品の購入などに使わせて頂きました。

早速、地域拠点に設置したリーフレットからの問い合わせが多く寄せられ、ほとんどの方が利用登録をしています。特に小さ

いお子さんを持つ方は、定期的な利用にも繋がっています。利用者からの「ありがとう。」「助かりました。」の声を聞くと、微力でも役に立てた喜びと、次も頑張ろうという励みにもなります。

これからさらに、スキルアップしながら、それぞれのニーズに合った支援を目指します。そして、一緒に働く新しい仲間を増やしながら、明るく・楽しく・パワフルに、地域貢献できる、はちどりになりたいと思います。



●茨城ワーカーズ・コレクティブ協議会全体研修を開催しました

～2025年 超高齢社会を超えて～ 継続と継承意思決定のための組織運営

2024年
11月13日
実施

中小企業診断士の川口先生をお迎えしたオンライン研修に私たちワーカーズの事業継続について、問題解決の糸口を見つけるべく参加しました。

私たちワーカーズや生活クラブへの辛口コメントや的確なアドバイスに苦笑いをしつつ頷きながらお話を伺いました。人間には寿命があるが、事業は「強い気持ち」と「仕組みづくり」があれば継続することができ、事業も生物同様に「環境変化に適応」しつつ「進化」しなければ生き残れない…とのこと。

私たちは事業をなぜスタートしたのか？この事業で組合員（会員）は幸せになっているのか？地域にその事業を残す価値はあるのか？事業を継続するためには、ビジョン（目標）とパーパス（目的）が鍵になること、会議のやり方を見直すことの提案がありました。

また、アドバイスの中で「長期的、重要度高い」と分類された項目を私たちは「長期的、重要度低い」と認識していたことに気づき、早速次の会議で見直す提案を行いました。



さまざまなアドバイスがありましたが、特に「立ち上げ時は同じ方向を見て動き、時が経つと皆同じ問題にぶち当たる。未来に向かって話す時間が必要」という言葉が心に残りました。この研修を活かし、皆で未来に向けた話し合いをしていきます。具体的なアドバイスをありがとうございました。

（企）ワーカーズ・コレクティブはあもにい 粟田美奈子

●「福島原発事故を忘れない！」被災地交流会に参加して

被災地交流会は、東京ワーカーズ・コレクティブ協同組合を中心に企画され、2012年から毎年継続して行われています。今年度は、当協議会から3名が参加し、11月21日に福島県いわき市内4か所でお話を聞きました。

①認定NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね

原発事故後、被曝の被害から子どもたち、地域の人々の暮らしを守るため2011年11月に設立された市民測定室。たくさんの専門家の協力を得ながら測定（食物、空間、海洋、人体等）、保養活動を行い、またクリニックや心のケア事業にも着手。地域に寄り添い続けています。



市民測定室たらちね

②いわき震災伝承みらい館

「震災メモリアル事業」として国の復興交付金などで建設され2020年オープン。津波被害に遭った旧豊間中学校の卒業式の寄せ書きが残る黒板や、井戸沢断層の剥ぎ取り標本などが展示されています。



いわき震災伝承みらい館

③兎渡路（ととろ）の家

眼科医の木村医師ご夫妻が作られた研修センター。お2人の地域づくり、脱原発への熱い思い、また南相馬市同慶寺のご住職のお話も伺うことができました。



兎渡路（ととろ）の家

④元禄彩雅宿、古滝屋

震災直後から救援物資の配達拠点になるなど地域支援を積極的に行っており、現在もボランティアの宿泊やロビーに震災関連コーナーを設置したりもしているという旅館。9階には「原子力災害考証館」があり、短時間で見学した後、1階のラウンジで木村紀夫さんのお話を伺いました。



原子力災害考証館

木村さんは被災時、大熊町に在住。津波で父、妻、次女が行方不明になるが、原発事故により捜索が打ち切りになり、次女のゆうなさんの遺骨の一部が見つかるまでに5年9か月。今も中間貯蔵施設立地区域に含まれてしまった自宅に通って捜索する傍ら、語り部の活動をされている方です。

淡々とした木村さんの語る言葉ひとつひとつが、非常に重く、胸に迫るものがありました。たらちねでの「『震災時の自分の対応が子どもにとって良くなかったのではないかと自分を責めてしまうお母さんがいる』というお話と共に、原子力災害の特殊性、そしてそれが現在も終わっていないことを改めて感じた研修となりました。

たすけあいワーカーズ・コレクティブはちどり 魚津真喜子

いわき放射能市民測定室たらちね <https://tarachineiwaki.org/>
原子力災害考証館 <https://furusatondm.mystrikingly.com/>
大熊未来塾（木村紀夫さん） <https://okuma-future.jp/>

木村さんからのメッセージ

・災害時に、家族を心配して自宅に戻り自分が犠牲になるという悲劇が度々起きています。災害が起きたらどこに逃げるのかを日ごろから家族で話し合っておき、まずは自分第一で避難してほしい。

・福島原発では、東京や首都圏に送る電気を作っていましたが、福島県民はその電気を使っていません。中間貯蔵施設がいつか最終処分場になるのでは？という不信と不安は消えません。福島では、今でも家族が分断されふるさどが消失し、苦しんでいる人々がいることを忘れないでほしい。そして、自分たちの豊かな生活を振り返る視点を持ってほしい。

